

医療法人芙蓉会 南草津病院

訪問リハビリテーション情報誌

みなりハ

第20号

発行月 2017. 1月

皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年は熊本地震やリオデジャネイロオリンピック、東京都知事選やアメリカ大統領選挙、25年ぶりの広島カープ優勝等、様々な出来事がありました。酉年となる今年は一体どのような一年になるのでしょうか？

一般的に「酉」とはにわたりの事をさすそうですが、「酉」という漢字は酒つぼを描いたもので、酒に関する字に使われてきました。そこで「収穫した作物から酒を抽出する」という意味や、収穫できる状態であることから「実る」という意味も表わします。また、にわとりは人に時を報告する動物とされ、「とり⇒とりこむ」で商売や物事の飛躍に繋がるとされているそうです。今年一年が皆様にとって飛躍の一年となることを祈りつつ、我々はそんな皆様の力になれるよう日々努力していきたいと思っています。

さて、今年度の「みなりハ」では、訪問リハビリを卒業した方の「その後」の様子をお伝えしてきました。読んでいただけた方からは、「がんばらはったんやね！」「すごいね！」等多くの感想をもらいました。しかし、どうしても気になることが…。

今年度最後の記事を紹介するとともに、一つ言わせてください。 **「次はあなたの番です！」** 記事で紹介されている内容を人ごとと思わず、「自分は何に参加できるか」「自分ならどんなことができるのか」と考えてみてください。「みなりハ」がよい刺激になり、皆様の考え方や生活に変化をもたらすきっかけになればうれしく思います。

【注意！！】

今年の冬もインフルエンザやノロウイルスが怖い時期になっています。

訪問リハビリ当日であっても下痢や嘔吐等がある場合は、インフルエンザやノロウイルスの疑いがあるため、お休みの連絡をお願いします。

手洗い・うがい等の予防策も十分に行ってください。

「 訪問リハビリ卒業後の生活の様子 」

今年度のみなりハ通信では、訪問リハビリを卒業されたご利用者様の「その後」の様子をお伝えしてきました。今年度の最終号では栗東市にお住まいのDさんの「その後」についてご紹介します。

Dさんは3年半前に脳出血を発症され、リハビリ目的で南草津病院に入院されていました。約半年後に自宅退院し訪問リハビリを開始され、今から1年半前に訪問リハビリを卒業されています。つい先日、電話させていただく機会があり、現在のご様子をお伺いしました。

退院直後、訪問リハビリでは自宅内の杖移動や入浴など、入院中に練習してきた事が自宅で安定して行えているかを確認する目的で始まりました。退院後、3か月程で少しずつ自宅での生活に慣れてこられ、新たに洗濯や調理、車いすを利用した外出が可能かどうか検討しながら訪問リハビリを継続されていました。その結果、屋内での洗濯干しや簡単な調理、車いすでの外出が可能な状態になられ訪問リハビリを卒業されました。

訪問リハビリを卒業されてから1年半が経過していますが、リハビリ中に身に着けた活動は現在も続けておられるようです。Dさんに携わった者としてそれだけでも嬉しい事なのですが、それだけではなく、一人でお風呂の掃除を行っておられると聞いて驚きました。お風呂で使用するシャワーチェアに座り、長柄ブラシで浴槽を磨いてらっしゃるようです。おそらくDさんご自身で出来ている事と、少し工夫すれば出来る事を考えられたのだと思います。

リハビリテーション（Rehabilitation）とは、Re・habilitate「再び（できる事を）適合させる」という意味合いがあります。今持っている力を生活の中で少しでも使っていくこと、日常生活そのものがリハビリになることもたくさんあるのではないのでしょうか。無理に新しい事や変わったことをする必要はないと思います。今までやってきた事、好きでしてきた事など、私たちと一緒に今までの生活を振り返りながら考えてみませんか。

【お知らせ】

昨年度はお忙しい中、『訪問リハビリアンケート調査』にご協力いただきまして、ありがとうございました。ご利用者様・ご家族様からいただいた貴重な意見を参考に、今後より一層充実したリハビリテーションの提供を心がけていく所存です。本年もよろしく願いいたします。